

御開帳告知

御開帳は来年(平成26年)の 4月5日に行ないます。

33年に1度の朝日寺本尊の薬師如来御開帳を来年の4月5日(土)に行なう運びとなりました。総代会等で鋭意計画を進めております。

まずは日程の決定と予算策定について話し合い、

- ① 4月5日に開帳を行なうこと
- ② 同日に稚児行列を行なうこと
- (③ 閉扉式を翌日の4月6日に行なうこと)

となりました(③は有力案ではあるが、変更の可能性有り)。それ以上のことについては、本年秋を目処に意見を出し合っ決めていくように考えております。どなたにとっても一生のうちに数回あるかないかの貴重

な機会であり、朝日寺にとってこれ以上ない重要な行事ですので、より多くの方にお参り頂ける素晴らしい行事を計画して参ります。来年の朝日寺だよりでは皆様に行事の正式な案内が出来る予定です。

皆様楽しみにお待ち下さい。また、何かとご協力を仰ぐこともあるかと思いますがよろしくお願い致します。

御開帳については、朝日寺ホームページ内に『御開帳専用ページ』(<http://chonichiji.net/gokaichou.htm>)を1月1日より開いております。決定事項を随時更新、そこに至る総代会の議事録も掲載しておりますので、見られる環境にある方はぜひご覧下さい。

シリーズ

開帳の思い出

三十三年に一度の御開帳がいよいよ来年(四月五日)に近づいてきました。今回は、生まれてから尻海の在で、過去をよく知る川野昭子様に「開帳の思い出」をお聞きしました。



川野さん—今度で三回目になります。これまで二回開帳を迎えられたとのことですが、どのような形で参加されましたか？

川野さん—最初に経験した昭和二十三年の際には、婦人部の世話役で餅つきやお稚児さんの手伝いをしました。二回目の昭和五十六年の際には御詠歌隊の一員として御詠歌をお唱えしました。

—その二回の御開帳で特に印象に残っていることや思い出に残っていることは何ですか？

川野さん—最初(昭和二十三年)は、まだまだ若かったですし、特にお寺の役のことなど詳しく分からない中で、



周りの方に言われるままに、お手伝いをしていて、あつたと言っに終わっ印象です。でも、子供が稚児行列に参加して良い記念となったこと、そしてお餅をついたり、行事の準備をしたり、開帳当日もすくすく多くの人で、賑やかなお祭りらしい雰囲気がかく記憶に残っています。

—前回(昭和五十六年)に関して、その御開帳を盛り上げようと、言っことで御詠歌隊が新たに前年から集められ、私も誘われてその一員に入りました。当時自分は詠歌組の中の最年少であり、最初は難しいなあと思いつながら先輩方から「絶対すぐできるよになるから」と言われながら練習してました。当時は尻海にもたくさんご詠歌をしている方が居ましたので、行事が近づくと連日連夜集まっは一生懸命練習してました。やはり前回に関してには行事そのものよりも、毎晩のように御詠歌を練習していた日々が思い出されますね。

—行事当日は稚児行列が出来ないあいに雨だったのですが、その大勢の人がお堂の中に集まって、ごった返している状態でした。何と言っかその光景が逆に賑やか

なお祭りという感じで、やはり御開帳は賑やかな行事であるという感覚が、より一層強まった気がします。

—お話を聞くと、二回とも純粋なお参りというわけではなく、何だか慌しかったように思えますが、扉の開かれたお薬師さまの顔は見ることができましたか？

川野さん—はい。ちゃんとお薬師さまを見ることは出来ましたし顔も覚えてますよ。人生の中で何度もないこと、ありがたく拝ませてもらいました。終わっってみるとまた三十三



—前二回に比べて、今度はもっともっとなんか落ちて開帳を迎えられそうに思いますが、差し迫った次の御開帳に寄せる思いをお聞かせ下さい。

川野さん—はい、そうですね。今度は純粋にじっくりと拝ませてもらえるかなと思っています。私も八十代になりますのでこれが人生最後の御開帳です。過去二回を知っているからこそその思いがあります。まずは元気に御開帳の日を迎えられることですね。今回も賑やかな開帳行事が楽しみです。

—なるほど。それぞれの年齢や立場での御開帳への思いがあるわけですね。それでは最後に読者の皆様へのメッセージを。

川野さん—よりたくさんの方に御参りして欲しいです。人生で数回あるかないかのことで、みんな出来ることを協力し合っ、立派な御開帳になることを願っています。

—お話しありがとうございました。